

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	韓国語社会言語学Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	木1
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>①授業のテーマと概要 本講義は、社会的文脈におかれた言語使用の実態を明らかにしようとする立場、つまり社会言語学的な観点に立って、現代韓国語を分析しようとするものです。</p> <p>②授業の目的と到達目標 韓国語が使用される国・地域における歴史、文化、社会、政治、経済の特質を理解するとともに、アジアのダイナミズムに目を向け、広い視野で共生のあり方を考察する力を身に付けます。(DP3)</p> <p>③授業形態 韓国語の社会言語学について書かれた論文読んだり、インターネットから調べ資料についての解説を聞きながら、韓国語社会言語学に関する理解を深めて行きます。なお、授業の資料は、前もってGoogle Classroomにアップされています。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回☑オリエンテーション（授業の目的・進め方について）、シラバス確認 ・社会言語学の領域と基本概念</p> <p>第2回☑「韓国の若者言葉と俗語」その1</p> <p>第3回☑「韓国の若者言葉と俗語」その2</p> <p>第4回☑「韓国の若者言葉と俗語」その3</p> <p>第5回☑「中称・等称語尾の使用状況について」その1</p> <p>第6回☑「中称・等称語尾の使用状況について」その2</p> <p>第7回☑「中称・等称語尾の使用状況について」その3</p> <p>第8回☑「終止形語尾の体系」についての全体的な説明</p> <p>第9回☑「『役割語』についての日韓対照研究」その1</p> <p>第10回☑「『役割語』についての日韓対照研究」その2</p> <p>第11回☑「『役割語』についての日韓対照研究」その3</p> <p>第12回☑「方言意識に関する日韓対照研究」その1</p> <p>第13回☑「方言意識に関する日韓対照研究」その2</p> <p>第14回☑「方言意識に関する日韓対照研究」その3</p> <p>第15回☑期末試験とその解説</p>		
授業形態	対面		
評価方法 ※	定期試験と授業への貢献度を考慮して総合的に評価します。		

評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	情報リテラシー演習	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	木曜・1・2限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	102
学修分野			
授業目的 ※	<p>大学生として講義や演習を履修していく上で不可欠なコンピュータ利用技法を学ぶ。文書作成、表計算やグラフ作成、プレゼンテーション、インターネットを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、画像・音声の利用と処理、コンピュータとネットワークの基本的な仕組みの理解、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶことで、問題解決のための基礎的素養を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータおよび情報の知識を習得し、社会の中で活用することができる。（知識・理解） ・ 情報を適切に収集、分析及び活用することができる。（汎用的技能） ・ 情報モラルを身につけ、ICTを利活用することができる。（態度・志向性） 		
授業内容	<p>1.ガイダンス・メールの練習 諸注意、大学のネットワークの概要、情報倫理、ノートPCの環境構築、クラス分けアンケート</p> <p>2.初期設定・Webによる情報検索 インターネットの基本概念、利用上の注意、メールの使用方法、ノートPCの利用（Windowsとアプリケーション）</p> <p>3.基本操作の確認と文書編集 ファイルとフォルダの管理、インターネットによる情報検索</p> <p>4.Wordの演習(1) ・ Wordの文書作成と文字の装飾 ・ Wordのレイアウト設定と印刷</p> <p>5.Wordの演習(2) ・ Wordによるレポート形式文書の作成 ・ Wordによる論文形式文書の作成</p> <p>6.Excelの演習(1) ・ Excelの概要と基本操作：データの集計（和、平均）、データの図表表現（チャート化） ・ Excelの表とグラフ作成：データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ）</p> <p>7.Excelの演習(2) ・ Excelの関数：データの並び替え、ランキング ・ Excelの高度な関数</p> <p>8.PowerPointの演習 ・ PowerPointの概要と基本操作 ・ PowerPointの画像挿入と配置設定</p>		

<p>授業形態</p> <p>※</p>	<p>9.Officeのまとめと情報活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究レポート作成課題「テーマ設定」：優れた可視化事例の紹介 ・ 研究レポート作成課題「基本構想」：表形式のデータ（csv）の扱い方 <p>10.Officeのまとめと情報活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究レポート作成課題「基本調査とデータ収集」：データ解析ツール（スプレッドシート）、データの比較（条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト） ・ 研究レポート作成課題「分析と文書作成」：不適切なグラフ表現（チャートジャンク、不必要な視覚的要素） <p>11.HTMLの学習(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HTMLの概要とテキストエディタの基本操作 ・ HTMLのレイアウト設定（文字装飾、見出し、段落） <p>12.HTMLの学習(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HTMLの画像挿入と表作成 ・ スタイルシートの基礎 <p>13.HTMLの学習(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スタイルシートの活用 <p>14.HTMLの学習(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マルチメディア（画像、映像、音声）の利用 <p>15.HTMLの学習(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HTMLとCSSを用いた課題作成講義形式を主体とし、テーマに沿った事例に基づくディスカッションを毎回行う。 <p>毎回、授業の理解度を測定するための確認テストを行う。</p>
<p>評価方法</p> <p>※</p>	<p>課題</p> <p>Office文書作成およびWebページ作成を課題とする。それぞれの評価の内訳は以下の通り。</p> <p>Office文書作成課題：30% Webページ作成課題：30%</p> <p>レポート</p> <p>指定された要件を満たすレポートを、Word、Excel、PowerPointを用いて作成する。</p>
<p>評価基準</p>	<p>課題60%、レポート40%</p>
<p>テキスト</p>	<p>「学生のためのOfficeスキル活用&情報モラル」 noa出版 978-4-908434-40-2</p> <p>「これからはじめるHTML&CSSの本」 千貫りこ 技術評論社 978-4-7741-8968-0</p>
<p>注意事項</p>	
<p>授業シラバス</p>	<p>シラバス検索ページ</p> <p>https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</p> <p>※開講年度学期（2023前期）、授業科目「情報リテラシー演習」で検索</p>

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	中国社会研究Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	木2
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>中国には一代にして企業を有名な大企業に成長させた経営者が存在する。彼らはなぜそのような偉業を成し遂げることができたのだろうか。彼らのパーソナリティは中国社会でどのように育まれたのだろうか。企業の成功と中国社会の特色はどのように関わっているのだろうか。受講生と資料を読み分析する。本講義の目的は、中国社会の特質を理解するのみならず、思考力、分析力、ディスカッション力を養うことも目的とする。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回 講義概要と授業の進め方 第2回 中国経営者列伝 (1) レノボを築いた「柳傳志」 (P.25～P.36) ーなぜ、どのようにして成功したのかー 第3回 中国経営者列伝 (2) レノボ (P.36～P.45) ーなぜ、どのようにして成功したのかー 第4回 中国経営者列伝 (1) ハイアールを築いた「張瑞敏」 (P.49～P.57) ーなぜ、どのようにして成功したのかー 第5回 中国経営者列伝 (2) ハイアール (P.57～P.64) ーなぜ、どのようにして成功したのかー 第6回 中国経営者列伝 (3) ハイアール (P.64～P.70) ーなぜ、どのようにして成功したのかー 第7回 中国経営者列伝 (1) ワハハを築いた「宗慶後」 (P.75～P.83) ーなぜ、どのようにして成功したのかー 第8回 中国経営者列伝 (2) ワハハ (P.83～P.96) ーなぜ、どのようにして成功したのかー 第9回 中国経営者列伝 (1) ファウェイを築いた「任正非」 (P.99～P.110) ーなぜ、どのようにして成功したのかー 第10回 中国経営者列伝 (2) ファウェイ (P.110～P.118) ーなぜ、どのようにして成功したのかー 第11回 経営者列伝における共通項の分析 第12回 課題発見アクティブラーニング 第13回 サーチのためのアクティブラーニング 第14回 サーチ結果の発表と質疑応答 第15回 総まとめ</p>		
授業形態	対面		

評価方法 ※	授業への貢献度20%、課題・リアクションペーパー30%、レポート50%
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	現代ラテンアメリカ研究 I	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	木 2
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>ラテンアメリカは、一方では多くの共通した面を持ちながらも、他方では独自性を有する地域です。地域としてのラテンアメリカを、自然環境、人種構成、社会、文化構造などの観点から多面的にアプローチし、ラテンアメリカ地域を総合的かつ体系的に学びます。</p> <p>より専門的なラテンアメリカ地域文化研究、すなわちラテンアメリカの歴史、文化・文学、国際政治・経済、国際協力などについて、より研究を発展させる研究演習（ゼミナール）につながる科目でもあります。</p> <p>具体的には以下の内容にそって、適宜、映像や音声を取り入れながら授業を進めます。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回☑イントロダクション 第2回☑文化 第3回☑種と階層社会 第4回☑住民 第5回☑教（1）：キリスト教の普及 第6回☑教（2）：植民地時代以前の宗教とキリスト教の融合 第7回☑環境問題（1）：開発と環境保全 第8回☑環境問題（2）：先住民から見た環境保全 第9回☑治と経済（1）：独立から寡頭支配体制まで 第10回☑治と経済（2）：ポピュリズム 第11回☑治と経済（3）：軍事政権 第12回☑治と経済（4）：民政移管 第13回☑説・映画 第14回☑楽・絵画 第15回☑総括：現代のラテンアメリカを取り巻く諸問題</p>		
授業形態	対面		
	●授業への貢献度(25%)		

評価方法 ※	<ul style="list-style-type: none"> ●中間発表（30%） ●最終レポート（45%） ●発表およびレポートは①ラテンアメリカの社会、②ラテンアメリカの文化、③ラテンアメリカの政治・経済のいずれかについて文献図書を参考にまとめて下さい。 ●最終レポートの内容について、まず授業内で中間発表として報告して下さい。その際のフィードバックも踏まえつつ、提出締切までにレポートを完成させ提出して下さい。
評価基準	
テキスト	
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	子どもの保健	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	木・2
キャンパス※	佐倉	教室※	多目的
学修分野			
授業目的 ※	子どもの保健は、子どもの日常生活を実践の場とし、子どもの健康の維持・増進を目的としている。常に成長・発達する子どもの健康の維持・増進につとめられるよう、身体的・社会的・精神的側面から子どもの特徴や発育の過程、健康状態の把握の方法を理解するとともに(保育に関する知識)、子どもに特有な症状や疾病とその予防法や対応の仕方について身につける(保育技術・保育実技)。		
到達目標	現代の複雑多様な社会背景や環境の中で子どもを守る保育者の在り方を考え、保育施設の子どものみならず、地域の子どもの保育支援アドバイザーとしての自覚を持ち(社会的責任、リーダーシップ)、多職種間の連携・協働のもとで適切なコミュニケーションを取りながら(コミュニケーションスキル、チームワーク、課題解決力)、貢献できる保育者となることを目指す。		
授業内容 授業形態 ※	講義形式が中心となるが、グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、各自の考えを発言し、グループ内における意見を統合し発表を行い、クラスで共有する時間を設ける。配布資料が多いため、各自工夫してファイリングすること。また専用のノートを作成し、自分なりに各回の授業内容をまとめること。振り返りシートは、授業における単なる感想ではなく自らの考えや気づきなどを記入すること。振り返りの問題については、次回の授業で答え合わせと確認を行う。個別の質問に関しては、内容によっては全体に対してフィードバックを行い共有をする。実技演習時は髪をまとめ、爪を切り、動きやすい服装等で臨んでください。		
評価方法 ※	定期試験(60%) 課題レポート+振り返りシート+授業への参加(40%)		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	健康科学概論	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	(α h) 火・3 (β h) 木・2
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	(α h) 204 (β h) 204
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中の基礎科目に位置づけられる。		
授業目的 ※	より望ましいライフスタイルを獲得するための知識を学びます。 特に、青年期というライフステージに必要な健康に関する知識を学んでいきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康とは何か？どのような状態をさすのかを理解する。 ・食事、運動（含む外傷、予防）、睡眠等に関する正しい知識を獲得する。 ・健康なライフスタイルを獲得するための様々な知識を獲得する。 		
授業内容 授業形態 ※	<p>第1回 オリエンテーション、健康とは/ W.H.O.の世界保健憲章（前文）に見る「健康」</p> <p>第2回 「体育」の定義/「知育」「徳育」「体育」と三育主義。</p> <p>第3回 「体力」の定義/防衛体力と行動体力、体力の構成要素</p> <p>第4回 様々な指数 (1)/ BMIによって何が評価できるのか。指数を算定・評価します</p> <p>第5回 様々な指数 (2)/ カウプ指数、ローレル指数によって何が評価できるのか。指数・評価を算定します</p> <p>第6回 様々な指数 (3)/ ブリンクマン指数によって何が評価できるのか。指数算定・評価します</p> <p>第7回 水分補給量/生活やスポーツ時に必要な水分量を算定します</p> <p>第8回 身体の構造と機能(1)/ 骨、関節、筋肉の構造と機能について学びます</p> <p>第9回 身体の構造と機能(2)/ 神経系の働き、乳幼児期における神経系の発達について学びます。呼吸器の働きについて学びます</p> <p>第10回 運動（スポーツ）外傷(1)/ 運動（スポーツ）時の外傷における救急処置について学びます</p> <p>第11回 運動（スポーツ）外傷(2)/ 運動（スポーツ）時の外傷における救急処置について学びます</p> <p>第12回 感染症/感染症の種類、感染経路、感染症予防の手段について学びます</p> <p>第13回 健康な生活設計/薬物、アルコール、たばこと健康について学びます</p> <p>第14回 ストレスと健康/ストレスの身体への反応、運動とストレスの関係について学びます</p> <p>第15回 まとめ/授業のまとめと振り返りを行います</p>		
評価方法 ※	小テスト（40%）、提出物・課題（40%）、授業への取り組み（20%）		
評価基準			
テキスト	安部孝／尾崎隼朗／川畑和也／清水洋生／宮田洋之／著『子どもの健康と遊びの科学 からだと心を育む術』（講談社、2022年）		
注意事項	特にありません。		
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/Syllabus/SyllabusConfirm.asp?cdsl=3200&nendo=2023		

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	東京情報大学	学部・学科名 ※	総合情報学部・総合情報学科
科目名 ※	システム設計論 a	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	木曜・2限
キャンパス※	東京情報大学	教室※	301
学修分野			
授業目的 ※	インターネット時代の情報システムの設計・構築・管理法について理解を深め、Webベース情報システム（Webアプリケーション）を実現する設計・構築・管理法を習得する。まず、情報システムの設計思想の変遷を概説し、情報システムの重要性やシステム開発モデルを理解する。次に、インフラ設計やアプリケーション設計などの設計の流れやシステムの分析設計法について学ぶ。更に、身に付けた専門知識を社会で活用する技術力や、問題を発見し、論理的に整理する能力も身に付ける。		
到達目標	Webベース情報システム（Webアプリケーション）の設計・構築・管理法に関する標準化・基礎知識と最新技術動向を理解し、ユーザ要求分析からアプリケーション設計までの流れと情報処理技術を取得すると共に、実際の具体例に応用できる能力を養う。（知識・理解）		
授業内容 授業形態 ※	<p>01. ガイダンス 02. 情報システム概論 03. 情報システムの処理形態と変遷 04. ハードウェア進歩と情報システムの設計思想 05. クライアントサーバシステム 06. Web 3階層型クライアントサーバシステム 07. システム設計・構築 08. テスト計画・設計・プロジェクト管理 09. インフラ設計 10. システム分析設計技法(1) 11. システム分析設計技法(2) 12. アプリケーション設計・構築 13. ユーザインタフェース設計・Webアプリケーション設計 14. 全体まとめ 15. 期末試験、解説</p> <p>・テキストを使用して、講義形式で行う。講義の理解状況を確認するため、毎回演習を実施する。 ・13回と14回には、システム設計の全体の流れに関する理解状況を評価するため、総合演習を実施し、レポート提出を課する。</p>		
評価方法 ※	<p>課題 受講した回の内容に関する演習を実施し、理解度を確認する。 平常試験 到達目標のユーザ要求分析からアプリケーション設計までのシステム設計に関する理解度を評価するための試験を実施する。</p>		

評価基準	課題40%、平常試験60%
テキスト	
注意事項	
授業シラバス	シラバス検索ページ https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 ※開講年度学期（2023前期）、授業科目「システム設計論 a」で検索

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	児童英語教育論A	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	月3・木3
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	この講義は将来的に早期英語学習者を対象とする英語教師になるために、必要な理論や教育現場での実践活動を概観し、模擬授業などの実技演習にも取り組む。特に我が国における早期英語教育の全体像と新学習指導要領における小学校外国語活動と外国語科を理解し、自ら授業案を立案・指導できるようになるための入門基礎科目として関連内容を幅広く扱う。		
到達目標			
授業内容	<p>第1回 ④座内容の紹介、成績評価方法、レポート課題発表 第1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ①</p> <p>第2回 ④1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ② 新学習指導要領を紐解く、グループワーク①</p> <p>第3回 ④1章：小学校における英語教育－導入の経緯、現状と展望 ③ 新学習指導要領を紐解く、クイズ、グループワーク②</p> <p>第4回 ④2章：言語習得と関連領域 ① 子どもの言語獲得の過程 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み① 学習理論、生成文法、相互作用論、実践体験その1：子どもの歌、TPR</p> <p>第5回 ④2章：言語習得と関連領域 ② 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み② インプットとアウトプット理論、インタラクション仮説、クイズ 実践体験その2：絵本の読み聞かせ①</p> <p>第6回 ④2章：言語習得と関連領域 ③ 第二言語習得論 関連領域からの理論的枠組み③ CPH、気付きの理論、ピアジェ、ヴィゴツキー、クイズ 実践体験その2：絵本の読み聞かせ②</p> <p>第7回 ④3章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携①、</p>		

クイズ、実践体験その3：チームティーチング①

第8回 3章：基本的な外国語教授法 ナチュラルアプローチ、CLT、他教科連携②、
クイズ

第9回 実践体験その3：チームティーチング②

第10回 3章：基本的な外国語教授法 絵本やお話を使った外国語指導①

第11回 3章：基本的な外国語教授法 絵本やお話を使った外国語指導②

第12回 4章：国際理解教育と英語教育

第13章：指導の基本と留意ポイント

第13回 9章：クラスルーム・イングリッシュの活用

スモールトーク演習①

第14回 9章：クラスルーム・イングリッシュの活用

スモールトーク演習②

第15回 11章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての
知識①、グループワーク

第16回 11章：教材の使い方・選び方と開発方法：教材の作成・教具についての
知識②、グループワーク

第17回 11章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導
歌やチャンツの使い方、演習①

第18回 11章：教材の使い方・選び方と開発方法：音声指導
歌やチャンツの使い方、演習②

第19回 14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方

『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク①

第20回 14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方

『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク②

第21回 14章：指導の実際：単元計画、授業の組み立て方

『We can!』を使って模擬授業案を検討する：グループワーク③

第22回 15章：文字指導のあり方①

模擬授業準備、実践演習、グループワーク④

第23回 15章：文字指導のあり方②

模擬授業準備、実践演習、グループワーク⑤

第24回 教材作成、実践演習、グループワーク⑥

第25回 模擬授業に向けての技術的指導、実践演習、グループワーク⑦

第26回 模擬授業①チームティーチング、考察、フィードバック

第27回 模擬授業②チームティーチング、考察、フィードバック

第28回 模擬授業③チームティーチング、考察、フィードバック

第29回 模擬授業実践の振り返りと理論の裏付け ②

課題提出

第30回 実践と理論の結びつけ、授業のまとめ

課題返却

授業形態

対面

評価方法 ※	レポート・クイズ・振り返り 30% 実技演習 40% 授業への貢献 30% レポート・クイズ、授業デモ、授業への貢献度を考慮して総合的に評価する。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確 認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	現代スペイン文学Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	木3
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>1. Tema y esquema del curso: En este curso estudiaremos las obras literarias españolas más importantes escritas entre la Edad Media y el siglo XIX. El estudio de estas obras se llevará a cabo a través de la lectura de textos significativos traducidos al japonés y de extractos fílmicos de películas que adaptaron las obras. 授業のテーマと概要 本講義では中世から19世紀までのスペインの重要な文学作品について学びます。取り上げる作品については、日本語に翻訳されたものを読み、映画などの映像を見て理解を深めます。</p> <p>2. Objetivos y metas: Conocer las características fundamentales de la literatura española en cada período histórico-literario. Conocer a los escritores y obras más importantes de cada época. Reconocer las particularidades de las obras que se analicen en clase. Aprender a comentar de manera adecuada un texto literario. Adquirir los conocimientos básicos para hablar de literatura española en cualquier situación comunicativa. Fomentar el pensamiento crítico a través de los textos literarios. 授業の目的と到達目標 スペイン文学における、歴代作品の基本的な特徴を知る 各時代の優れた著者についてと、その作品について知る 授業で分析する作品の特徴についての理解を深める 文学作品に適切な注釈をつける方法を学ぶこと スペイン文学について語るうえで、必要な基礎知識を身に着けること 文学作品を通じて、批判的思考を考える力を身につけましょう。</p>		
到達目標			

授業内容	<p>第1回 <input checked="" type="checkbox"/> Introducción a la asignatura / オリエンテーション、シラバス確認</p> <p>第2回 <input checked="" type="checkbox"/> literatura medieval española / 中世スペイン文学</p> <p>第3回 <input checked="" type="checkbox"/> análisis del "Cantar de mio Cid" / 『わがシッドの歌』の分析</p> <p>第4回 <input checked="" type="checkbox"/> análisis de El conde Lucanor / 『ルカノール伯爵』の分析</p> <p>第5回 <input checked="" type="checkbox"/> análisis de "La Celestina" / 『ラ・セレスティーナ』の分析</p> <p>第6回 <input checked="" type="checkbox"/> literatura española del Siglo de Oro / スペイン黄金世紀文学</p> <p>第7回 <input checked="" type="checkbox"/> análisis del "Lazarillo de Tormes" / 『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』の分析</p> <p>第8回 <input checked="" type="checkbox"/> análisis de "Fuenteovejuna" / 『フエンテ・オベフーナ』の分析</p> <p>第9回 <input checked="" type="checkbox"/> análisis de "Don Quijote de la Mancha" / 『ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャ』の分析</p> <p>第10回 <input checked="" type="checkbox"/> literatura española del Romanticismo / スペインロマン主義文学</p> <p>第11回 <input checked="" type="checkbox"/> análisis de "Don Juan Tenorio" / 『ドン・ファン・テノーリオ』の分析</p> <p>第12回 <input checked="" type="checkbox"/> análisis de las "Leyendas" / 『伝説集』の分析</p> <p>第13回 <input checked="" type="checkbox"/> literatura española del Realismo y Naturalismo / スペイン写実主義文学</p> <p>第14回 <input checked="" type="checkbox"/> análisis de "Fortunata y Jacinta" / 『フォルトゥナータとハシンタ』の分析</p> <p>第15回 <input checked="" type="checkbox"/> análisis de "La Regenta" y examen final / 『ラ・レヘンタ』の分析と学期末試験</p>
授業形態	対面
評価方法 ※	<p>Trabajo: 40%</p> <p>Examen (respuesta múltiple): 40%</p> <p>Participación en clase: 20%</p> <p>レポート40%</p> <p>試験 [選択問題] 40%</p> <p>授業への貢献 20%</p>
評価基準	
テキスト	
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。</p>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	生涯スポーツ実習	単位数 ※	1
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	木・3
キャンパス※	佐倉	教室※	体育館
学修分野			
授業目的 ※	保育者として必要とされるスポーツ・運動に関する理論を理解する。		
到達目標	<p>また、運動・スポーツの実践を通して運動技能の向上や健康の保持・増進を図る中で、生涯スポーツとしての運動・スポーツとして様々な人との関わりを深めることができるようになることを目指す（自己管理）。そのことで、協働的な課題解決の能力を高めていくことを期待する（課題解決力）。また、運動・スポーツを通して自己の特性を理解するとともに、他者の理解を深めることができるようになることや、集団での活動を通して、自己の身体だけでなく他者との身体を通じた関わりを経験していくことで、様々な形式でのコミュニケーションの方法を獲得していくことを期待する（コミュニケーションスキル・チームワーク）。これらの過程を通して、保育者として主体的に成長していく力を身につけることを目標とする（社会的責任・生涯学習）。</p>		
授業内容 授業形態 ※	<p>実技を中心とし、グループでの課題解決学習をおこなう。個人の実技試験などをもとに、集団形成を行い、スポーツ活動を通しての役割の認識を深める。集団での活動内容を記録し、結果への反映を評価しながら、活動課題へとフィードバックしていく。</p>		
評価方法 ※	受講時の課題達成50%、個人実技課題30%、グループ課題20%、		
評価基準			
テキスト			
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉敬愛短期大学	学部・学科名 ※	現代子ども学科
科目名 ※	社会的養護 I	単位数 ※	2
開講学期 ※	前期	曜日・時限 ※	木・3
キャンパス ※	佐倉	教室 ※	206
学修分野			
授業目的 ※	本講義では、わが国における社会的養護の理念と方向性を把握し、現在実施されている社会的養護の意義を理解する。		
到達目標	社会的養護の実践は、児童福祉における現実問題の解決という課題を担っている。		
授業内容 授業形態 ※	<p>まずは、その社会的養護が児童の権利の保障をめざしてどのように展開されているのかを理解する。くわえて、児童福祉のいかなる制度と実施体系のもとに実践が行われているのかを把握する。また、児童の自立支援が養護の中軸にあることを学習し、本学DPに鑑み、保育士の専門職者としての実践について理解を深めていく。</p> <p>基本的に講義形式で行うとともに、施設の様子について視聴覚資料を通して具体的に理解する。視聴覚資料を用いながら、社会的養護における施設養護の実態を具体的にイメージすることを導入目標として、社会的養護の必要性や現状における課題を捕捉し、そこでの児童をめぐる社会的養護の課題を理解する。</p>		
評価方法 ※	試験60%、授業への積極的な参加姿勢20%、レポート・課題提出20%		
評価基準			
テキスト	松本峰雄編『子どもの養護』建帛社 福祉小六法編集委員会編『福祉小六法』みらい		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	認知発達と英語教育A	単位数 ※	4
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	火4木4
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講座は、ことばの習得において重要な役割を担う乳幼児期・児童期に、「子どもの認知と言語がどのように発達するか」を学ぶことを目的としている。</p> <p>授業では、認知と言語の発達に関する種々の側面（概念の形成、語彙の発達、脳の機能と発達、文法の理解の発達、発達障害、心の理論など）を科学的な研究に基づいて学ぶ。さらにPiagetの発達理論やVygotskyの社会文化理論などの諸理論より、学習がどのように成立するか学ぶ。</p> <p>本講座において学生は、以上の認知発達の過程と特徴、および、子どもの心理と言語習得に関する知識を修得すると同時に、これらの知識をどのように英語教育の指導方法や指導技術に応用できるかをともに考える。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回 ㊦ 講座の概要、目的、試験、評価について 序章 認知と言語の発達に関する展望</p> <p>第2回 ㊦ 1章 早期のカテゴリー表象と概念</p> <p>第3回 ㊦ 1章 早期のカテゴリー表象と概念</p> <p>第4回 ㊦ 1章 早期のカテゴリー表象と概念</p> <p>第5回 ㊦ 1章 早期のカテゴリー表象と概念</p> <p>第6回 ㊦ 2章 初期の語彙</p> <p>第7回 ㊦ 2章 初期の語彙</p> <p>第8回 ㊦ 2章 初期の語彙</p> <p>第9回 ㊦ 2章 初期の語彙</p> <p>第10回 ㊦ 3章 脳と認知の発達</p> <p>第11回 ㊦ 3章 脳と認知の発達</p> <p>第12回 ㊦ 3章 脳と認知の発達</p> <p>第13回 ㊦ 3章 脳と認知の発達</p> <p>第14回 ㊦ 3章 脳と認知の発達</p> <p>第15回 ㊦ 4章 子どもの文法理解の発達</p> <p>第16回 ㊦ 4章 子どもの文法理解の発達</p> <p>第17回 ㊦ 4章 子どもの文法理解の発達</p>		

	第18回 ㊦ 4章 子どもの文法理解の発達 第19回 ㊦ 5章 小児期における実行機能：発達と障害 第20回 ㊦ 5章 小児期における実行機能：発達と障害 第21回 ㊦ 5章 小児期における実行機能：発達と障害 第22回 ㊦ 5章 小児期における実行機能：発達と障害 第23回 ㊦ 6章 心の理解 第24回 ㊦ 6章 心の理解 第25回 ㊦ 6章 心の理解 第26回 ㊦ 6章 心の理解 第27回 ㊦ 8章 学習と認知発達における社会認知的見解 第28回 ㊦ 8章 学習と認知発達における社会認知的見解 第29回 ㊦ 8章 学習と認知発達における社会認知的見解 第30回 ㊦ 習・テスト
授業形態	対面
評価方法 ※	期末テスト 40% レポート 30% 宿題 30% 出席は必須。6回以上の欠席で不可。 欠席1回ごとに2点を差し引く。遅刻3回で1回休みとする。
評価基準	
テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確 認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	韓国経済論Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	木4
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>① 授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では現代韓国経済の全体像を捉えるために幅広く学習する。 <p>②授業の目的と到達目標</p> <p>《目的》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代韓国経済の構造を幅広く学ぶことで韓国の社会経済への理解を深めることが目的である。 <p>《到達目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国の経済構造について自分なりに整理し、自分の言葉で他人に説明することができるようになる。 ・グループディスカッションと発表を通じて専門的な知識を総合的に活用する力を身につける。 <p>③授業形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回少人数のグループ分けをして、授業テーマに関連する内容でグループディスカッションを行う。 ・それぞれのグループリーダーが議論内容をまとめて発表し、教員がコメントを行う。 ・授業テーマに関してわかりやすく講義を行うとともに日韓比較という視点から日本の現状についても紹介する。 ・最後に、講義内容を簡潔にまとめてから質疑応答を行う。 		
到達目標			
授業内容	<p>第1回 <input checked="" type="checkbox"/> リエンテーション</p> <p>第2回 <input checked="" type="checkbox"/> 韓国経済早わかり</p> <p>第3回 <input checked="" type="checkbox"/> 韓国の経済発展の特徴</p> <p>第4回 <input checked="" type="checkbox"/> 韓国の民主化運動の足跡（映像解説）</p> <p>第5回 <input checked="" type="checkbox"/> 韓国経済の歩み 1 (1945-80)</p> <p>第6回 <input checked="" type="checkbox"/> 韓国経済の歩み 2 (1980-97)</p> <p>第7回 <input checked="" type="checkbox"/> 韓国経済の歩み 3 (1997-現在)</p> <p>第8回 <input checked="" type="checkbox"/> 97年の経済危機と韓国経済</p> <p>第9回 <input checked="" type="checkbox"/> 産業構造の変化</p>		

授業形態	<p>第10回 ❷力産業と新たに浮上する産業</p> <p>第11回 ❷易構造の変化</p> <p>第12回 ❷国のFTAの動向と特徴</p> <p>第13回 ❷働市場の現状と課題 1</p> <p>第14回 ❷働市場の現状と課題 2</p> <p>第15回 ❷義全体のまとめ</p> <p>対面</p>
評価方法 ※	授業への参加度：50%、レポート：50%
評価基準	
テキスト	
注意事項	<p>この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上 (https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/) からシラバス検索で該当科目を確認 をしてください。</p>
授業シラバス	

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	神田外語大学	学部・学科名 ※	外国語学部
科目名 ※	東南アジア史Ⅰ	単位数 ※	2
開講学期※	前期	曜日・時限 ※	木5
キャンパス※	幕張キャンパス	教室※	未決定
学修分野			
授業目的 ※	<p>本講義では、古くからさまざまなヒト、モノ、情報が交錯するコスモポリタンシティ（国際都市）であった東南アジア地域の歴史に焦点を当て、異質な人々同士が出会い、モノや情報を交換し、技術を学び、伝えながら、お互いに良好な（時として野蛮な）関係を取り結んでいったことについて、じっくり考え、議論していきたいと考えています。</p> <p>前期の東南アジア史Ⅰでは、前近代東南アジア海域に跋扈した「海賊」に焦点を当てます。映像資料（映画、ドラマ）や文献資料（小説、学術論文）を積極的に利用しながら、資料から見えてくる「事実」を学び、その意味を解き明かすとともに、資料からは十分に見えてこない部分の「事実」も想像しながら、「海賊」の存在の表と裏に迫っていきましょう。</p>		
到達目標			
授業内容	<p>第1回☑イントロダクション 第2回☑領域概念としての「東南アジア」 第3回☑近代東南アジアの海と「海に生きる人たち」①講読 第4回☑近代東南アジアの海と「海に生きる人たち」②ディスカッション 第5回☑スモポリタンシティとしての港市国家①講読 第6回☑スモポリタンシティとしての港市国家②ディスカッション 第7回☑航海時代と船乗りたち①講読 第8回☑航海時代と船乗りたち②ディスカッション 第9回☑洋社会から東南アジアへの「まなざし」①講読 第10回☑洋社会から東南アジアへの「まなざし」②ディスカッション 第11回☑東インド会社」とはなにものだったのか？①講読 第12回☑東インド会社」とはなにものだったのか？②ディスカッション 第13回☑本の「鎖国」を考えてみる①講読 第14回☑本の「鎖国」を考えてみる②ディスカッション 第15回☑期末レポートへのフィードバックと発展学習</p>		
授業形態	対面		
評価方法 ※	授業への貢献度（グループディスカッションおよびプレゼンテーションでのプレゼンスを含む）、リアクションペーパー、期末レポートの内容をもとに、総合的に評価する。		
評価基準			

テキスト	
注意事項	この表はシラバス情報の一部となります。履修を検討される方は、必ず本学のホームページ上（ https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/target/student/ ）からシラバス検索で該当科目を確認をしてください。
授業シラバス	

※は必須記入事項